



2017 年度事業報告書

特定非営利活動法人エフエムわいわい

Nonprofit Organization FMYY(En)

Organización sin fines de lucro FMYY(Es)

Tổ chức NPO FMYY(Vt)

◆総括

1995 年の震災から始まった「コミュニティの必要に応じ、コミュニティの人々から発信」として生まれた「FM わいわい」(以後 FMYY)の求めるところは、世紀が変わり、年号が変わっても変わりはない。もちろんその形態は以下の年表をみても、社会変化といろんな方々の参加と篤い教示や示唆、知恵や情報の共有の中で変容し、ラジオ電波からインターネット配信へ、そして放送から通信というインターネットサイトとしての新しい形態をとることとなった。

年月日	事象	きっかけ・目的
1995 年 1 月 17 日	「阪神・淡路大震災」発災！	被災地での情報共有の必要性。
1995 年 1 月 30 日	「FM ヨボセヨ」放送開始。	被災地での定住外国人の心の安寧。
1995 年 4 月 16 日	「FM ユーメン」放送開始。	より不安な環境の人々への気づき。
1995 年 7 月 17 日	「FM ヨボセヨ」と 「FM ユーメン」が融合 市民メディア「FM わいわい」 放送開始。	被災地でのまちづくりに必要な復旧・復興のまちづくりのための情報共有・知恵の共有の交換、醸造、新たな提言などを求めて、「まちづくり」の必要な人・モノ・知恵・金の流通の場として活動。
1996 年 1 月 17 日	電波管理局からの免許取得「株式会社エフエムわいわい」として放送開始。	1 年の海賊放送は広く認められ、被災地での復旧・復興の情報共有ツールの必要性を知らしめた。
1998 年 1 月 17 日	ジェームス比嘉さんの尽力によりインターネットでの配信も開始。電波だけでなく Ustream、YYTV など多様な媒体活用。	時代は ITC へ。日本での FMYY の活動を広く知らせることが可能なツールとして着目された方による全面支援でインターネット放送も開始。
2010 年 7 月 3 日	特定非営利活動法人格取得のための設立総会。	2008 年 9 月の欧州議会で「コミュニティメディアを制度化すべし」とする決議がなされた。決議文には「社会が多様化していく中では異文化間の対話は、持続可能な社会づくりには欠かせない。社会の中の声なき声に耳を傾け、その声をしっかり社会に反映させていくことをコミュニティメディアは可能にする」と明記されている。15 年に渡る FMYY の活動を NPO 法人として外国籍やいろんな違いのある仲間と社会に反省していくための活動母体の形態をとりたいと考え、この法人格取得のための動き始めた。
2011 年 2 月 7 日	特定非営利活動法人としての法人格取得。	法人格は取得したが、他の NPO 法人では承認されている外国籍の理事というのはメディアにおいては

		許されなかった。
2016 年 1 月 17 日	国の免許返還を理事会からのお知らせとして発信。	放送法の改正による法的・経済的負担増は、草の根レベルで実施してきた正式開局 20 年(海賊放送を含めると 21 年)のその未来を予想することのできない状況になった。また時代に即した新たな配信形態が一般庶民にも手に届く時代になったこともあり、運営体制も一新した「みんなで支えるコミュニティメディア」としての道を選んだ。
2016 年 3 月 31 日	5 年免許更新の承認を受けたが、3 月末をもってラジオ電波を終了。免許返還。	作業部会としての会議をそれまでの仲間、新たな仲間との会議を開催。たくさんの会員会議での話し合いで、解散は否決。存在は必要とされ、みんなで支える完全ボランティア団体として再出発。
2016 年 4 月 17 日	インターネットメディア「FM わいわい」配信開始。	暫定的な昼と夜の「ワンコイン番組」と WMIBA (WorldMusicInternetBroadcastingAssociation) の音楽配信。(WMIBA から 400 曲楽曲提供)
2016 年 7 月 17 日	番組形式をとっての Ustream 配信開始。	覚書を交わした新番組の配信開始。
2018 年 3 月 17 日	生放送番組を YouTube 配信開始。	ICT のますますの変化の中で、継続のための、より市民らしい形態を求めている。

2016 年 6 月の総会において、法の免許を持たない、しかしコミュニティメディア FMYY という「発信の場」として存続すべしという、「みんなの総意」をもって歩み始めて、1 年半が過ぎた。

ボランティアで支える「コミュニティメディア」の維持運営に適した形態への模索は引き続き 2017 年も続いている。発信の場としての「番組」は、順調な継続を続けている。それは明らかな実感や体感があるためと考えられる。自己実現だけではなく、全く違った人々や感性との出会い、共感とともに次の展開が見えてくるという実感があるからだろう。また地域への多様性の顕在化という意味では、毎月のアフリカからの留学生との地域食堂での会食やインドネシアでの草の根事業連携団体のスタッフとの地域まち歩き、地域祭りでの音響担当や、それぞれの番組が取材を行うなど、地道な活動が少しずつではあるが、たかとりコミュニティセンターの「ゆるゆる多文化いとかし」の広がりの一助となっている。

また、阪神淡路大震災以来、「たかとり」で培ったこうしたコミュニティ活動は、国境を越えてインドネシアやタイ、ネパールなどで同じくコミュニティ活動に取り組む仲間達に共有され、人のつながりはボーダーレスに発展している。相互の学び合いが互いの地域社会をよりよいものにしていくことは、インターネット時代の今、ますます必要なこととなっている。



しかしながら市民が支える「場」の継続維持は、なかなか困難である。その一例としては、番組制作の機材操作を冒険心をもって担当し、インターネットでの配信システムを誰でもが簡便に担当できるようにする仕組み、その構築の締め切り時間(2020年)が迫っていることの実感だ。

誰でもが扱いやすく、信頼のおけるシステム、そしてもちろん身にあった経費。外国語対応という概念だけではない、まさに「ユニバーサルデザイン」な情報発信を公的配信のメディアの様式で構築する必要があることを実感した2017年であった。

I 事業

(1) 多文化共生のまちづくりに資するコミュニティメディア事業

ア) 発信

現在のFMYYの番組配信は、ストリーミング配信が2系統(サイマル放送、リッスンラジオ)、FMYYホームページの音源掲載(オンデマンド配信)、最近開始したYoutubeを使った動画中継。多種多様である。

① 番組の配信形態について

●サイマル放送：地上波時代と同様の方式。現在、北関西情報通信株式会社のストリーミングサーバーをレンタル利用。スタジオ内のミキサーからの音源をエンコーダ(音源のデジタル化)パソコンで受け、インターネット経由でサーバーに送り、そこから世界に向けて配信している。Windowsパソコンでの視聴が主であるが、FM聴(てい)やtuneinRadio、myTunerRadioなどのアプリで視聴可能。「FM聴」は北関西情報通信株式会社が提供。それ以外はアプリ提供者が独自にチャンネルに加入。今後の提供は不確実。

●リッスンラジオ(リスラジ)：株式会社ディーピーエヌが提供するサービス。主に国内向けに配信。スタジオ内にディーピーエヌが管理するパソコンがあり、インターネット経由でリスラジのサーバーに送信。FMYYから月毎に番組内容を編集してディーピーエヌに送り、アプリ内でFMYYの番組情報を表示。サイマル放送とは違い、リスラジ専用アプリかリスラジのホームページでのみ視聴可能。

●FMYYホームページの音源掲載：現在11番組の音源を、ストリーミング配信と同時に、または何回か分まとめて、FMYYのホームページに掲載。長田今昔物語や奄美専門チャンネル、ベトナム語番組やラジオママンネット関係の視聴数が多い。

●YoutubeLive：山中研究室から提供を受けたメディア機器を使って、2018年3月17日から開始。現在ストリーミング配信で生録実施7番組が、Youtubeで動画中継を実施。中継終了後は、保存された動画が自動でアップロード。徐々に視聴数が上昇。

② 配信システム全般について

●同時録音システム：本スタジオで生録をする土曜日と水曜日のみ同録用パソコンで自動録音。各番組担当者がこの音源をカットし番組フォルダ(FMYYサーバ)に保存、日曜以降の配信プレイリストの音源になっている。番組提供者からの音源も番組フォルダに保存。

●土曜日以外のストリーミング配信：土曜夜に日曜から金曜日までのプレイリストを作成。本スタジオのミキサーに接続したiTunesパソコンを使って、無人で日曜日から配信を開始し終了。配信時間は11時55分から夜の8時10分。

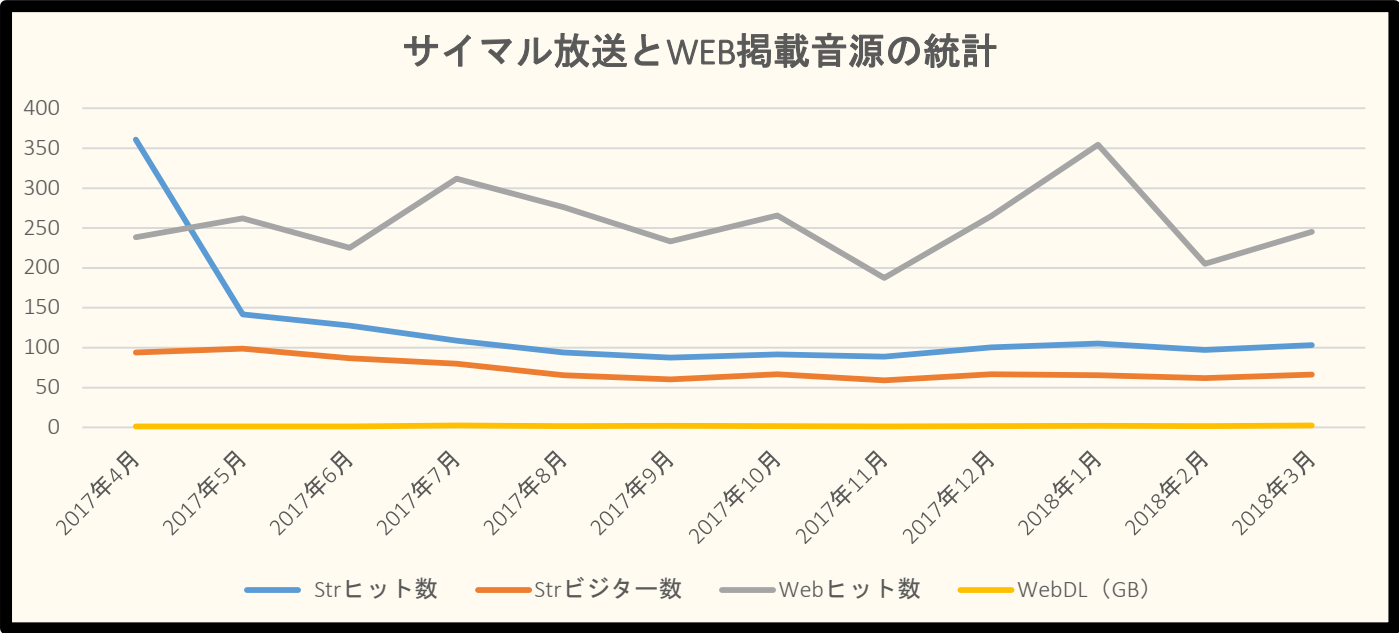
●視聴数の統計：現在、サイマル放送とFMYYホームページ掲載音源の視聴統計を集計し、1カ月ごとにCrewメンバー(番組制作関係者で構成)に送付。リッスンラジオ、Youtubeも、視聴ログが可能。

●FMYYストリーミング配信モニター：長田神社前商店街とアスタくにつかコミュニティハウスにFMYY専用のモニターがあり、通行の人たちがFMYYのストリーミング配信を視聴可能。

●トラブル対応：配信状況は無音検知パソコンでトレースされており、配信トラブルがあった場合はFMYY

にメール送信。技術スタッフによる遠隔操作で対応が可能。

●問題点：現在のスタジオ内の放送用パソコンは、いずれも製造より 8～10 年以上経過したもの。修理、再インストールしての利用。2020 年度以降の継続には機器の購入や大幅なシステム刷新が必要。現在のサイマル放送に使われているソフトウェアも 2020 年 1 月でサポート終了。利用できない。



③配信番組

【タイムテーブル 2018 年 4 月～】

FMYY 制作番組：ワンコイン番組／YYJournal 助成金番組：1 番組 支援番組：3 番組

団体提供番組：7 組 個人提供番組：3 番組 教育機関提供番組：3 番組 コミュニティ AD

タイムテーブル(2018年4月度)						2018年4月～
時間	第1土曜日	第2土曜日	第3土曜日	第4土曜日	第5土曜日	時間
12時～13時	ワンコイン番組 FMYY	ワンコイン番組 FMYY	ワンコイン番組 FMYY	ワンコイン番組 FMYY	ワンコイン番組再放送	12時～13時
13時～13時30分				らの食わいびbyネットワークながた プロジェクトM	ワンコイン番組再放送	13時～13時30分
13時30分～14時	サタデーカフェテラス ラジオママネット	わいわいキッズラジオ ラジオママネット	街ブラ～人と街とくらしを繋る～ ラジオママネット	ママトーク ラジオママネット		13時30分～14時
14時～14時30分				YYジャーナル 長田の視点 FMYY	ワンコイン番組再放送	14時～14時30分
14時30分～15時	いまだきのメディアリテラシー 関西学院大学山中ゼミ	いまだきのメディアリテラシー 関西学院大学山中ゼミ	いまだきのメディアリテラシー 関西学院大学山中ゼミ	いまだきのメディアリテラシー 関西学院大学山中ゼミ		14時30分～15時
15時～16時	Latin-a (前週の再放送) ひょうごラテンコミュニティ	Latin-a (前週の再放送) ひょうごラテンコミュニティ	Latin-a (前週の再放送) ひょうごラテンコミュニティ	Latin-a (前週の再放送) ひょうごラテンコミュニティ	ワンコイン番組再放送	15時～16時
16時～16時30分	KOBE bridging JAPAN & AFRICA through ICT (日本語) 神戸情報大学院大学(神戸市)	KOBE bridging JAPAN & AFRICA through ICT (日本語) 神戸情報大学院大学	神戸市立須磨翔風高校・福島県立原町高校 神戸市立須磨翔風高校	ゆうかりに乾杯 ゆうかり放送委員会		16時～16時30分
16時30分～17時	KOBE bridging JAPAN & AFRICA through ICT (En) Graduate School of Information Technology Kobe Institute of Computing	KOBE bridging JAPAN & AFRICA through ICT (En) Graduate School of Information Technology Kobe Institute of Computing				16時30分～17時
17時～17時30分	HAY AN NHIEU MA SONG (住みやすい日本をつくるための情報番組) ベトナム夢KOBE(住友コムCSR基金)	HAY AN NHIEU MA SONG (住みやすい日本をつくるための情報番組) ベトナム夢KOBE(住友コムCSR基金)	奄美専門チャンネル「南の風」			17時～17時30分
17時30分～18時			大橋愛由等			17時30分～18時
18時～18時30分			FMビバウシ			18時～18時30分
18時30分～19時	즐거운 잔소리 시간 楽しいおしゃべりの時間 厳美鈴・池澤秀樹		FMYY	YYジャーナル 長田の視点 FMYY	YYジャーナル 長田の視点 FMYY	18時30分～19時
19時～19時15分	Wmiba アーティストセレクション Trilogic/Wmiba	Wmiba アーティストセレクション Trilogic/Wmiba	Wmiba アーティストセレクション Trilogic/Wmiba	Wmiba アーティストセレクション Trilogic/Wmiba		19時～19時15分
19時15分～19時30分	長田今昔物語～千夜一夜 プロジェクトM	長田今昔物語～千夜一夜 プロジェクトM	長田今昔物語～千夜一夜 プロジェクトM	長田今昔物語～千夜一夜 プロジェクトM	長田今昔物語～千夜一夜 プロジェクトM	19時15分～19時30分
19時30分～19時45分	Voice of FUKUSHIMA プロジェクトM	Voice of FUKUSHIMA プロジェクトM	Voice of FUKUSHIMA プロジェクトM	Voice of FUKUSHIMA プロジェクトM	Voice of FUKUSHIMA プロジェクトM	19時30分～19時45分
19時45分～20時	だるま森+えりこのデモクラティックフラワーズ だるま森+えりこ	だるま森+えりこのデモクラティックフラワーズ だるま森+えりこ	だるま森+えりこのデモクラティックフラワーズ だるま森+えりこ	だるま森+えりこのデモクラティックフラワーズ だるま森+えりこ	だるま森+えりこのデモクラティックフラワーズ だるま森+えりこ	19時45分～20時

水曜日19:00～20:00
Latin-a
ひょうごラテンコミュニティ

※ 番組が表示されていないところは、わいわいミュージックタイム／アーカイブ(FMYY)になります。

●番組制作の流れ

1	番組制作希望受付
2	FMYY 番組制作要綱(定款の沿った FMYY の事業実施に関する行動規範に則ったもの)を遵守した番組制作意図であることを希望者と FMYY が確認
3	企画書を提出し覚書を交わす。配信時間。支払いについての話し合い。
4	使用音源に対する注意事項の説明、メディアにおける個人情報保護法、プライバシーの保護などを説明し番組についての詳細な打ち合わせ。

*事業実施行動規範、個人情報保護、プライバシー保護等の規定、覚書、料金表は参考資料。

●番組制作者からの 2017 年度の報告 (FMYY 事務局から依頼した番組担当者のみ)

番組	制作意図とその成果
① FMYY 全体	今のメディアをめぐる状況は、広告費ありきの手回しメディアとメディアコントロールに長けた体制側の相関関係と情報の受け手側のメディアリテラシーレベルの低さ、その結果が”国境なき記者団”発表の世界報道自由度ランキング 2018 での日本は香港と僅差の 67 位。 <u>しかしながらそれが「大した話題にもならない」ことが日本の現実だ。</u> 放送法の壁が存在する以上、インターネットを使って、庶民感覚での自由討議、それを皆と広く共生することこそが、一人一人の幸せにつながるのだと伝える発信源となれ！と FMYY に求める。
② YYJournal	地域で発生する様々な社会現象を、現場の声を中心に取材やインタビューを重ねて真相に迫り、視聴者にその現象の本当の意味を伝え、問題意識を啓発。自身で考え自身で決断する <u>自立した人間形成の一助となることを目的</u> としている。これまで、2016 年 7 月 23 日の「シリア内戦下で活躍する日比さんの紹介」をはじめ 11 番組を作成。ゲストには最後に「今、神戸がどのように映っているかを尋ね」その問題が我がことであるよう、視聴者との共有を心がけ、その積み重ねで神戸の再生・復活を目指す。
③ ラジオママネット	ネットで手軽に自分の想いを発信できる現在。それでも FMYY での番組制作にこだわる理由は、 <u>ここにはいじわるな人がいないから！</u> 感情を共有し多様な個々のありのままを届けることで、どこかの誰かの心が緩むと信じている。キッズラジオのメンバーには、高圧的に一方的にいじめられた経験を持つ子たちがいる。共通しているのは、相手を思いやる心が引き起こす自責の念。自分を責めて本来の寛容さや優しさを抑えかけていた。が。FMYY という居場所に「あなたはそのままでもいい」と強く優しく包んで応援してもらった。 <u>ここは誰からも排除されない場所！である。</u>
④ ゆうかりに乾杯！	9 年間 133 回の放送を通して、たかとりコミュニティセンターの各団体との交流多種多様のゲストから、FMわいわいの理念である <u>マイノリティに寄り添い応援する事の大切さ、重要性を発信。</u> 番組ゲストが FMわいわいに共感し番組を通じ新たな方向を発信し、ゲストの活動がマイノリティの支援に繋がったこともある。今後も FMわいわいの理念の一端を担うための番組を制作し、番組に関係する人のコミュニティとリスナーを繋ぐ <u>懸け橋になることが目標だ。</u>
⑤ Latin-a	スペイン語によるライブ番組は facebook でも同時配信、リスナーがリアルタイムで毎月ゲスト出演している <u>専門家への質疑応答が可能</u> な日本でも唯一の貴重な時間。最近の You Tube 配信では facebook をしていないリスナーへも情報が届き、聞き逃した後もサイトで確認することができる。日本に住むスペイン語圏の人にとって生活するうえで重要な番組である。 La transmisión del programa radial Latin-a a través de Facebook, es importante porque los oyentes pueden interactuar y hacer consultas a nuestros invitados, entre ellos profesionales en diferentes ramas. Una interacción realmente valiosa a fin de brindar información a nuestra comunidad.
⑥ Phòng chống thiên tai	ベトナム語の放送は、在日ベトナム人に、災害の知識、具体的には、避難場所、保存食品の必要性を伝えることができた。ベトナム語での情報提供はベトナム人にとって、災害に対して断片的な理解ではなく <u>包括的な理解が可能</u> となった。ベトナム語と日本語に

	(フォン・チョン・ティエン・タイ) 「災害への備え」	よる番組制作を行う過程はベトナム人と日本人が主体的に参画できる場となり、在日ベトナム人と日本人との新しい共生のあり方を見出すための契機となった。 Thông qua chương trình phát thanh bằng tiếng Việt mà chúng tôi có thể truyền tải chi tiết cụ thể về kiến thức phòng chống thiên tai, những thông tin thiết yếu về thức ăn dự phòng, nơi lánh nạn cho người Việt Nam đang sinh sống ở Nhật. Nhờ cung cấp thông tin bằng tiếng Việt mà người Việt đã hiểu về thiên tai một cách bao quát toàn diện chứ không phải hiểu mập mờ, lúc hiểu lúc không hiểu. Quá trình làm chương trình phát thanh vừa tiếng Việt vừa tiếng Nhật trở thành nơi để người Việt và người Nhật tham gia đồng đẳng với nhau cũng là cơ hội nhìn ra được một xã hội cộng sinh mới của người Việt và người Nhật.
⑦	KOBE bridging JAPAN & AFRICA through ICT	神戸情報大学院大学のアフリカの留学生たちが、日本・神戸に住んでみての気づきや自分の国のことを紹介。<u>日本の当たり前についての意外な視点での発見</u>が毎回紹介。。 On the every first and second Saturdays in Japanese and in English, KIC students from Africa share their stories about what has surprised them once in Kobe, Japan, what they have found out through their life there, and other things they found intriguing and mind-blowing in Kobe or in Japan.
⑧	コミュニティ AD	地域の先進的取り組みを紹介するメッセージ。

④多様性の発信イベント

日時	名称	参加形態
4/29	第13回長田の園遊会花水木まつり	実行委員会委員参加
7/17・18	夏越ゆかた祭 ゆかたでナイト 2017	実行委員会委員参加
8/5・6	大国公園なつまつり	地域団体として屋台並びに音響担当
10/8	第14回輝け！集まれ！ながたっ子祭	実行委員会委員参加
11/5	第23回一七市拡大版 2017『あの日に思いやりの心』 を忘れぬために～改めて災害に備える心～	実行委員会委員参加
1/17	第19回 1.17KOBE に灯りを in ながた	実行委員会委員参加

※それぞれ祭の企画から実行委員として参加し、地域における多様性顕在化の提案、阪神・淡路大震災からの市民の活動が積み重ねてきた知恵の継承を提案する機会としている。

(2) 災害に対する防災・減災事業

ア) 海外事業

①インドネシアでの災害ラジオを活用した地域防災力強化



※写真は実際に2018年4月発災インドネシアの地震・土砂崩れ被災地で活用されたバックパクラジオ。日本と同じように災害が多く、かつコミュニティラジオ局が全土に広がるインドネシアの現地のコミュニ

ティラジオ関係者（インドネシアコミュニティラジオ協会）と 2006 年以來、FM わいわいは互いの経験と知識の共有を続けている。2016 年 3 月末に終了し JICA 草の根技術協力事業に引き続き JICA 草の根技術協力事業のフェーズ 2 として「官民協働によるコミュニティラジオを活用した防災力強化事業」について JICA 関西と委託契約を締結し、2017 年 7 月に事業をスタートした。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などで培った経験を生かして、インドネシアの三地域（東ジャワ、中部ジャワ、北スマトラ）で災害ラジオを活用した地域防災力の向上に取り組み、災害ラジオの制度化を推し進めている。事業期間は 2021 年 6 月までの四年間。インドネシアコミュニティラジオ協会内に FM わいわいの現地拠点を置いている。2017 年度の特筆すべきことは、BHN テレコム支援協議会と共同で、可搬型災害ラジオ放送システム（バックパックラジオ）の実用化を世界で初めてインドネシアで図った。

②神戸、ムラピ山（インドネシア）、有珠山（北海道）の三被災地の市民交流

2016 年度までにインドネシアで実施した JICA 草の根技術協力事業や神戸国際協力センターとの協働事業を通じて、ネットワークのできた神戸、ムラピ山（インドネシア）、有珠山（北海道）の三つの被災地の市民／団体がそれぞれ積み上げてきた、環境との調和、地域文化の継承、地域経済の活性化を重視した「災害からの復興」「災害に強いコミュニティづくり」の経験を、三地域でのフォーラムとフィールドワークを通して、まちづくりキーパーソンがともに学び合い、人的交流とネットワークを広げていく、他地域のモデルとなるよう SNS 等で成果を広める事業を国際交流基金アジアセンターのアジア市民交流助成プログラムとして実施した。2017 年 10 月にインドネシアのムラピ山から三名を日本に招聘するとともに、2018 年 2 月には有珠山から四名、神戸から三名がインドネシアを訪問し、相互交流を行った。

③世界コミュニティラジオ放送連盟アジア太平洋地域（AMARC Asia Pacific）との連携

AMARC の会員として、FM わいわいの経験を共有することに努め、11 月にバンコクで開催されたタイ放送委員会と AMARC Asia Pacific が開催してコミュニティラジオのセミナーに FM わいわい（金千秋）も参加した。また、2018 年秋に FMYY が活動拠点を置いているインドネシアのジョグジャカルタで AMARC Asia Pacific の第 4 回カンファレンス・総会の開催に向け、協力を続けた。

イ) 国内事業

①危機管理室との連携

神戸市危機管理室との覚書締結により、2017 年 4 月より FMYY のスタジオ内に神戸市防災行政無線の割込装置が設置され、神戸市危機管理室から放送される避難に関する情報、災害の発生や災害発生の恐れが、FMYY のストリーミング放送に割込んで流れるようになった。以前より神戸市危機管理室からの放送は、高尾山の無線中継局を経由して、たかとりコミュニティセンター（TCC）に設置されたラジオ型受信装置で受信されていたが、危機管理室との話し合いにより、スタジオ内に防災無線割込装置が設置され、TCC 事務所の受信機から FMYY のスタジオの割込装置までは、音声ケーブルと増幅器で接続されるようになった。防災行政無線の放送内容は、緊急地震情報、津波警報などの自然災害に加え、国民保護事態に分類される、ゲリラ攻撃、ミサイル攻撃などの情報も含まれる。また、17 日夕方 5 時からテスト放送が毎月行われ、これも FMYY のストリーミング配信中に流れるようになっている。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/about/construction/0200/img/2909musenguide.pdf>

②神戸情報大学院大学との ICT を使ったアプリ開発

研究テーマ名 the theme	名前・Name	研究テーマ概要・Outline of the theme
------------------	---------	------------------------------

在日外国人による罹災証明申請書の記入を補助するシステム	宮本聡史	災害後の罹災証明申請書等の書類を母国語で入力すると日本語に変換するシステム。
Mobile applications to support foreign people and rescue workers, before, during, and after natural catastrophes.	Tegegne Tesfaye Eyasu	This work aims to support foreigners and Japanese people by providing relevant information during the event of a natural catastrophe. This work also aims to utilize the huge amount of contents produced by FMYY radio to support rescue workers while doing their duties.
避難経路選択支援ツールの研究	金 楊武	リアルタイムに発信される災害情報を地図上に書き込み危険度を考慮し避難経路を提示するシステム開発。
機械翻訳精度向上のための日本語学的アプローチ	坂口まゆみ	インプット段階の日本語を神戸情報大学院大学の留学生等の協力でrewriteシステムの改良、災害情報、生活再建情報への対応も可能なレベルアプリを目指す。

＊神戸情報大学院大学の番組制作委託を受けたことを契機に、ICTで社会問題の解決を学習している留学生たちに、FMYYの災害時における様々な知見・問題を学生、並びに担当教官にプレゼンし、その中から自らが日本に住む外国人として災害時活用しやすいアプリ開発を実施。2017年度の成果を神戸市国際課・神戸危機管理室とも共有し今後につなげていく予定。

ウ) 国内外共通事業

①ジャパンプラットフォームの助成ステータスの取得

国内、海外で大災害が発生した際、直ちに救援活動を開始のため、ジャパンプラットフォームの助成ステータス取得に向け、要件整備(JANICのASCなど)に努めた。2018年6月にステータス取得予定。

②韓国通信省の臨時災害FMの有用性調査に協力、韓国通信省への報告書作成。

③東北・熊本地震への支援

臨時災害FMの法制度についての研究会開催。報告資料作成。全国被災地語り部実行委員会に参加。熊本シティエフエム・益城町臨時災害FM調査訪問、報告会参加。対応番組制作配信。

(3)多文化共生のまちづくりに資する場づくり、研究、教育、啓発事業

ア) 教育現場との連携

①大学・高校・中学・小学校・研究者(国内外)

形態	大学・研究者(国内外)
インターン受け入れ	神戸学院大学・大阪大学・京都外国語大学・ソウル女子大学校
講義(非常勤講師)	神戸親和大学・神戸常盤大学・神戸大学・兵庫県立大学・兵庫高校 関西学院大学・龍谷大学・神戸市立だいち小学校(教職員)
フィールドワーク	JICA 中南米・JICA アフリカ・JICA コミュニティ防災・高知県立大学 滋賀県立大学・インドネシアのムラピ山コミュニティラジオ実践者

イ) 企業との連携

NPO 広報力向上委員会「伝えるコツ」委員会委員

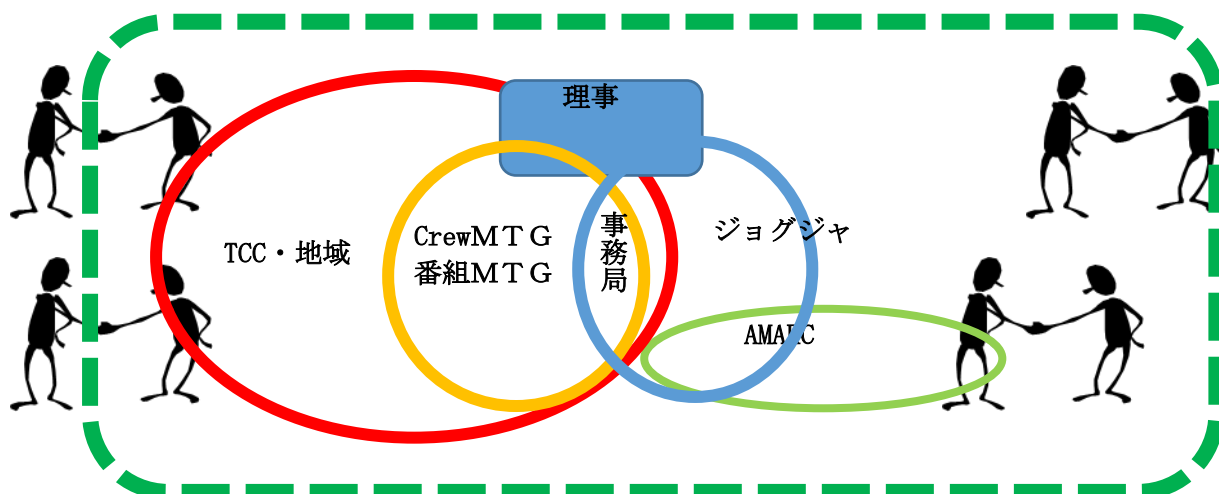
ウ) 自主勉強会

場づくり	ワンコイン番組 子どものためのPC教室・
自主勉強会	配信技術向上委員会(ミキサー講習)・・ボランティア論(FMYYでのボランティア)
	防災ワーキンググループ・著作権・個人情報保護・ポリティアカルコネクトなど

**理事や crew が講師となって、勉強会や知恵共有を行った。

Ⅱ 管理・運営

(1) 団体の運営体制



神戸・長田の日本事務所とインドネシア・ジョグジャカルタ事務所は日常的に What's up で繋がっている。これは海外におけるリスク管理の一環である。基本的に毎月事務局会議、コミュニティメディア事業における全体的な共有 crewMTG、会計は会計担当を中心に、FMYY コミュニティメディア事業と海外事業としての JICA 草の根の委託を受け実施する防災力強化事業という大きな柱を中心にたてている。管理部門の両者に渡る経費については 2017 年公認会計士の監査の上、案分で担当している。

コミュニティメディア事業と海外事業は、緩やかに繋がりつつ、日本の阪神・淡路大震災から生まれた様々な知見と海外における事業の中で知りえた、素晴らしい海外の知見を融合させ、国内外における、FMYY がその最初から求めている「誰でもが住みやすい社会構築」を目指している。

	出勤と会議	日本事務所	会計	海外	Crew	計
FMYY 事務局	火・木・土	大川・金・緒方	古寺	日比野・中川		6
番組 MTG	第 3 火曜日	大川・金・緒方			佃・宮本・河野・工藤・太田 番組制作者は参加可能。	8
CrewMTG	第 1 土曜	大川・金・緒方			FMYY 会員は参加可能	
理事	適宜	大川・金・緒方・日比野・長谷部・大坪・大城・橋爪・李				9
監事	年度末	森崎・高				2
会計	火・木	古寺				1
正会員		大川・金・緒方・日比野・長谷部・大坪・橋爪・李・高松・森崎・佃 野田北部・神田・吉富・金山(勉)・小川・中村・中嶋・和田・松浦 吉野・大城ロクサナ・金山(智)				23
賛助会員						23

一般会員			125
CrewML			50
NEWS 購読者			451
防災連絡網	LINE		14

(2) 2017 年度決算・

別紙参照 2016 年度の決算も添付。合わせてご確認ください。

(3) ファンドレイジング

個人寄付：FMYY の名前で大学の講義、イベント司会、フィールドワーク対応などの事業を行った場合
2 割を FMYY 会計に個人寄付として入れる。

一般寄付：上記とは別の寄付。

使途指定寄付：使途を指定しての寄付。

現在上記の寄付ということのみ行っているが、今後は別の展開も体制を組んでから実施予定。

◆2017 年度 総会開催

日 時：2017 年 6 月 17 日（土）14 時から 15 時半まで

場 所：カトリックたかとり教会 会議室（神戸市長田区海運町 3-3-8）

◆2017 年度 理事会

第 1 回 2017 年 5 月 28 日

第 2 回 2017 年 10 月 4 日

◆2017 年度 事務局体制

日本事務所：大川（澁澤）・金（西嶋）・緒方・日比野（海外事務所と半々）

インドネシア事務所：中川・日比野（海外事務所と半々）

会計：古寺

2017年度 活動計算書(案)

2017年04月01日～2018年03月31日

特定非営利活動法人 エフエムわいわい 特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

科目		金額		
Ⅰ 経常収益				
1. 受取会費				
	正会員受取会費	126,000		
	賛助会員受取会費	230,000		
	一般会員受取会費	194,000	550,000	
2. 受取寄付金				
	一般寄付金	100,340		
	使途指定寄付金	500,000		
	個人寄付	169,500	769,840	
3. 受取助成金等				
	受取国庫助成金			
	- 国際交流基金	1,354,760		
	受取民間助成金			
	- 住友ゴム工業	240,000	1,594,760	
4. 事業収益				
	コミュニティメディア事業収益			
	- 受託料	1,526,570		
	- 放送料	1,559,980		
	- 1コイン番組	101,971		
	- 謝礼	120,000		
	- レコード	40,000		
	- 機材	19,800		
	- 広告料	80,000		
		3,448,321		
	イベント企画・運営事業収益			
	- 受託料	437,840		
		437,840		
	コンテンツ企画・運営事業収益			
	- 受託料	318,280		
		318,280		
	災害支援事業収益	100,000		
		100,000		
	研究・教育・啓発事業収益			
	- 受託料	340,920		
	- 謝礼	48,589		
	- 書籍	8,600		
		398,109		
	JICA防災力強化プロジェクト収益			
	- 受託料	10,536,000		
		10,536,000	15,238,550	
5.その他収益				
	受取利息	2,600		
	雑収益	506	3,106	
経常収益合計				18,156,256
Ⅱ 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
	人件費	99,000		
	給料手当	5,761,251		
	人件費計	5,860,251		
(2) その他費用				
	諸謝金	257,644		
	旅費交通費	113,630		
	旅費(航空費)	1,112,444		
	旅費(その他)	663,140		
	会議費	86,486		
	施設使用料	8,400		
	ネット放送費	92,880		
	通信運搬費	116,121		
	消耗品費	211,136		
	資機材購送費	227,577		
	研修費	69,460		
	海外活動諸費	2,536,173		
	印刷製本費	42,064		
	その他活動諸費	1,309,249		
	保険料	38,580		
	水道光熱費	647,569		
	外注費	350,400		
	委託費	1,378,656		

2017年度 活動計算書(案)

2017年04月01日～2018年03月31日

特定非営利活動法人 エフエムわいわい 特定非営利活動に係る事業

の会計

(円)

科目		金額	
	諸会費	6,000	
	支払手数料	3,510	
	支払寄付金	113,400	
	減価償却費	833,472	
	その他費用計	10,217,991	
	事業費計		16,078,242
2. 管理費			
(1) 人件費			
	給料手当	104,650	
	法定福利費	582,716	
	通勤交通費	30,260	
	人件費計	717,626	
(2) その他費用			
	旅費交通費	9,920	
	会議費	7,562	
	通信運搬費	15,035	
	広告宣伝費	10,000	
	消耗品費	4,013	
	印刷製本費	3,637	
	修繕費	4,000	
	保険料	3,440	
	水道光熱費	92,510	
	顧問料	400,000	
	消費税	381,300	
	外注費	166,000	
	諸会費	139,000	
	支払手数料	53,682	
	租税公課	3,250	
	支払寄付金	10,000	
	雑費	4,382	
	その他費用計	1,307,731	
	管理費計		2,025,357
	経常費用合計		18,103,599
	当期経常増減額		52,657
2.経常外増減の部			
Ⅲ 経常外収益			
	過年度損益修正益		1,140
	経常外収益合計		1,140
Ⅳ 経常外費用			
固定資産除却売却損			
	為替差損		84,051
固定資産除却売却損計			
	過年度損益修正損		33,709
	経常外費用合計		117,760
	税引前当期正味財産増減額		-63,963
	法人税、住民税及び事業税		72,000
	当期正味財産増減額		-135,963
	前期繰越正味財産額		2,179,339
	次期繰越正味財産額		2,043,376

財務諸表の注記

特定非営利活動法人 エフエムわいわい

1. 重要な会計方針
- 財務諸表の作成は、NP0法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日改正 NP0法人会計基準協議会）によっています。
- (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。
2. 事業別損益の状況
- 事業別損益の状況は以下の通りです。

	科目名	コミュニティメディア	イベント・運営	コンテンツ・制作	復旧・復興	研究・啓発	防災力強化	事業部門計	管理部門	合計
1.経常増減の部										
(1)経常収益										
受取会費										
正会員受取会費		0	0	0	0	0	0	0	126,000	126,000
賛助会員受取会費		0	0	0	0	0	0	0	230,000	230,000
一般会員受取会費		0	0	0	0	0	0	0	194,000	194,000
受取会費計		0	0	0	0	0	0	0	550,000	550,000
受取寄付金										
一般寄付金		0	0	0	0	0	0	0	100,340	100,340
使途指定寄付金		500,000	0	0	0	0	0	500,000	0	500,000
個人寄付		0	0	0	0	0	0	0	169,500	169,500
受取寄付金計		500,000	0	0	0	0	0	500,000	269,840	769,840
受取助成金等										
受取国庫助成金		0	0	0	1,354,760	0	0	1,354,760	0	1,354,760
受取民間助成金		240,000	0	0	0	0	0	240,000	0	240,000
受取助成金等計		240,000	0	0	1,354,760	0	0	1,594,760	0	1,594,760
事業収益										
コミュニティメディア事業収益		3,448,321	0	0	0	0	0	3,448,321	0	3,448,321
イベント企画・運営事業収益		0	437,840	0	0	0	0	437,840	0	437,840
コンテンツ企画・運営事業収益		0	0	318,280	0	0	0	318,280	0	318,280
災害支援事業収益		0	0	0	100,000	0	0	100,000	0	100,000
研究・教育・啓発事業収益		0	0	0	0	398,109	0	398,109	0	398,109
IICA防災プロジェクト収益		0	0	0	0	0	10,536,000	10,536,000	0	10,536,000
事業収益計		3,448,321	437,840	318,280	100,000	398,109	10,536,000	15,238,550	0	15,238,550
その他収益										
受取利息		0	0	0	0	0	0	0	2,600	2,600
雑収益		0	0	0	0	0	0	0	506	506
その他収益計		0	0	0	0	0	0	0	3,106	3,106
経常収益合計		4,188,321	437,840	318,280	1,454,760	398,109	10,536,000	17,333,310	822,946	18,156,256
(2)経常費用										
【人件費】										
人件費		0	0	0	99,000	0	0	99,000	0	99,000
給料手当		0	0	0	0	0	5,761,251	5,761,251	104,650	5,865,901
法定福利費		0	0	0	0	0	0	0	582,716	582,716
通勤交通費		0	0	0	0	0	0	0	30,260	30,260
【人件費計】		0	0	0	99,000	0	5,761,251	5,860,251	717,626	6,577,877
【その他費用】										
諸謝金		55,000	9,000	94,548	0	99,096	0	257,644	0	257,644
旅費交通費		36,520	61,880	6,000	0	9,230	0	113,630	9,920	123,550
旅費(航空費)		0	0	0	835,307	0	277,137	1,112,444	0	1,112,444
旅費(その他)		0	0	0	496,642	0	166,498	663,140	0	663,140
会議費		59,296	18,320	0	6,450	2,420	0	86,486	7,562	94,048
施設使用料		8,400	0	0	0	0	0	8,400	0	8,400
ネット放送費		92,880	0	0	0	0	0	92,880	0	92,880

	科目名	コミュニティメディア	イベント・運営	コンテンツ・制作	復旧・復興	研究・啓発	防災力強化	事業部門計	管理部門	合計
	通信運搬費	79,439	15,635	1,804	2,405	3,608	13,230	116,121	15,035	131,156
	広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	10,000	10,000
	消耗品費	183,365	19,721	482	642	3,395	3,531	211,136	4,013	215,149
	資機材購送費	0	0	0	0	0	227,577	227,577	0	227,577
	研修費	0	0	0	69,460	0	0	69,460	0	69,460
	海外活動諸費	0	0	0	0	0	2,536,173	2,536,173	0	2,536,173
	印刷製本費	33,191	3,782	436	582	873	3,200	42,064	3,637	45,701
	修繕費	0	0	0	0	0	0	0	4,000	4,000
	その他活動諸費	0	0	0	0	0	1,309,249	1,309,249	0	1,309,249
	保険料	21,000	0	0	17,580	0	0	38,580	3,440	42,020
	水道光熱費	421,845	96,210	11,101	14,802	22,202	81,409	647,569	92,510	740,079
	顧問料	0	0	0	0	0	0	0	400,000	400,000
	消費税	0	0	0	0	0	0	0	381,300	381,300
	外注費	125,400	115,000	0	0	110,000	0	350,400	166,000	516,400
	委託費	1,181,400	0	52,000	0	145,256	0	1,378,656	0	1,378,656
	諸会費	2,500	0	0	0	3,500	0	6,000	139,000	145,000
	支払手数料	1,890	0	1,188	216	216	0	3,510	53,682	57,192
	租税公課	0	0	0	0	0	0	0	3,250	3,250
	支払寄付金	113,400	0	0	0	0	0	113,400	10,000	123,400
	雑費	0	0	0	0	0	0	0	4,382	4,382
	減価償却費	833,472	0	0	0	0	0	833,472	0	833,472
	【その他費用計】	3,248,998	339,548	167,559	1,444,086	399,796	4,618,004	10,217,991	1,307,731	11,525,722
	経常費用合計	3,248,998	339,548	167,559	1,543,086	399,796	10,379,255	16,078,242	2,025,357	18,103,599
	当期経常増減額	939,323	98,292	150,721	-88,326	-1,687	156,745	1,255,068	-1,202,411	52,657
	2.経常外増減の部									
	(1)経常外収益									
	為替差益	0	0	0	0	0	184,349	184,349	0	184,349
	過年度損益修正益	0	0	0	0	0	0	0	1,140	1,140
	経常外収益合計	0	0	0	0	0	184,349	184,349	1,140	185,489
	(2)経常外費用									
	固定資産除却売却損									
	為替差損	0	0	0	0	0	268,400	268,400	0	268,400
	固定資産除却売却損計	0	0	0	0	0	268,400	268,400	0	268,400
	過年度損益修正損	0	0	0	0	0	0	0	33,709	33,709
	経常外費用合計	0	0	0	0	0	268,400	268,400	33,709	302,109
	税引前当期正味財産増減額	939,323	98,292	150,721	-88,326	-1,687	72,694	1,171,017	-1,234,980	-63,963
	法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	72,000	72,000
	当期正味財産増減額	939,323	98,292	150,721	-88,326	-1,687	72,694	1,171,017	-1,306,980	-135,963

※ 通信運搬費、消耗品費、印刷製本費の按分に関しては経常収益基準によっています。

※ 共益費の按分に関しては面積比率と従事人数を勘案しています。

3. 使途等が制約された寄付等の内訳
- 使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
寄付金	0	500,000	357,526	142,474	ヤマハ製デジタルミキサー等の購入

4. 固定資産の増減の内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物付属設備	2,500,000	0	0	2,500,000	2,499,999	1
什器備品	4,689,104	216,000	0	4,905,104	3,282,498	1,622,606
合 計	6,973,104	216,000	0	7,189,104	5,782,497	1,622,607

5. 借入金の増減の内訳
- (単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	4,882,000	0	36,000	4,846,000

2017年度 貸借対照表(案)

2018年3月31日現在

特定非営利活動法人 エフエムわいわい 特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	725,281		
当座預金	1,091,110		
普通預金	3,954,074		
未収金	979,970		
流動資産合計		6,750,435	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物付属設備	1		
什器備品	1,622,606		
有形固定資産計	1,622,607		
(2) 無形固定資産			
電話加入権	114,984		
無形固定資産計	114,984		
固定資産合計		1,737,591	
資産合計			8,488,026
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	872,807		
未払法人税等	72,000		
前受金	161,480		
預り金	138,837		
短期借入金	4,226		
未払消費税	349,300		
流動負債合計		1,598,650	
固定負債			
長期借入金	4,846,000		
固定負債合計		4,846,000	
負債合計			6,444,650
正味財産合計			2,043,376

2017年度 特定非営利活動に係る事業の会計 財産目録(案)

2018年3月31日現在

特定非営利活動法人 エフエムわいわい

(円)

科 目	摘 要	金 額		
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		725,281		
小口現金		14,262		
小口1(金)		69,035		
小口2(大)		10,000		
インドネシア現金		26,715		
インドネシア現金2		605,269		
当座預金		1,091,110		
郵便振替口座		1,091,110		
普通預金		3,954,074		
三菱UFJ銀行		2,056,249		
ゆうちょ銀行(一般)		16,119		
ゆうちょ銀行(JICA)		1,728,318		
みなと銀行		51,015		
ペイパル		15,264		
インドネシア民衆銀行(BRI				
1)		585		
インドネシア民衆銀行(BRI				
2)		504		
インドネシア民衆銀行(BRI				
(BRI)		86,020		
未収金		979,970		
放送料		461,250		
企画制作料		66,960		
助成金		451,760		
流動資産合計			6,750,435	
2. 固定資産				
(1) 有形固定資産				
建物付属設備		1		
什器備品		1,622,606		
有形固定資産計		1,622,607		
(2) 無形固定資産				
電話加入権		114,984		
無形固定資産計		114,984		
固定資産合計			1,737,591	
資産合計				8,488,026
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金		872,807		
給料		670,044		
その他諸経費		172,763		
諸謝金		30,000		
未払法人税等		72,000		
前受金		161,480		
預り金		138,837		
源泉所得税(給与)		40,260		
源泉所得税(謝金)		3,412		
住民税		11,137		
社会保険料		84,028		
短期借入金		4,226		
未払消費税		349,300		
流動負債合計			1,598,650	
固定負債				
長期借入金		4,846,000		
固定負債合計			4,846,000	
負債合計				6,444,650
正味財産合計				2,043,376

2017年度 特定非営利活動に係る事業の会計 財産目録(案)
2018年3月31日現在
特定非営利活動法人 エフエムわいわい
(円)

科 目	摘 要	金 額
-----	-----	-----